

順天堂大学練馬病院外科だより

がん治療センター：化学療法室について

現在、外来での化学療法はがん治療のなかで非常に重要な役割を担っています。

化学療法室では**看護師**が一人ずつ担当し投与管理、有害事象や日常生活のアドバイスなどセルフケア指導を、また常駐する**薬剤師**による有害事象の評価・服薬指導を、**臨床心理士**による化学療法中の精神的なサポートを行っています。室内にはリクライニングシート19台、ベッド1台を備え全席にテレビがついており、現在**12診療科**で**650~700件/月**の治療を行っています。最近では短時間での治療が多くなり、治療の件数も年々増えています。

診療科や関連部署と連携し、患者さんの治療を支援しています。

化学療法室 伊代野 佐知子

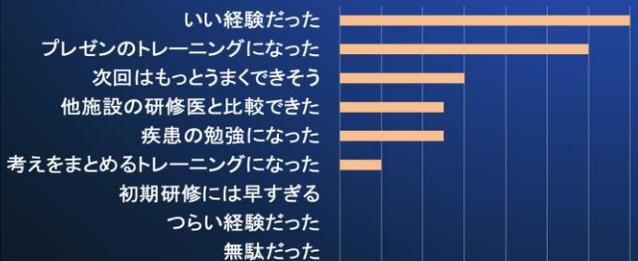


診療科や関連部署と親睦を深め協働しています。(筆者：2列目右端)

総合外科・消化器外科：卒後教育に学会発表は必要？

昨今、各種専門資格を取得する際の必須条件として、学会発表の経験をあげる資格が増えております。当科では、こうした学会発表や論文執筆などの学術活動は資格取得のためだけではなく、**物事を客観的、論理的に考えるトレーニングの一環として重要**と考え、研修医、若手医師を中心に積極的に取り組んでおります。今回、実際に学会発表を経験した研修医を対象に、意識調査アンケートを実施しましたのでご参考ください。

Q7. 発表を終えて



Q8. また発表したい？



Q9. 後輩にアドバイス



Q10. 意見・感想は？

- ・いい経験だったが、実際に発表を嫌がっている研修医もいた。決定は研修医に委ねるのが良いのでは・・・
- ・なかなか研修医自ら先生にお願いして発表の機会を作るのはハードルが高いと思うので・・・
- ・学年を経るごとに習うのは難しくなるので、研修医でできたのはいい経験

総合外科 科長 須郷広之

